

2018年JAF近畿ジムカーナ選手権第7戦 JMRC近畿ジムカーナチャンピオンシリーズ第7戦
JMRC全国オールスター選抜第7戦 2018JMRC近畿ジムカーナミドルシリーズ第7戦
DIREZZA CUP JMRC Kinki Gymkhana Festival [JAF公認No.2018-3123]

開催日：10月7日 開催場所：名阪スポーツランドCコース 格式：準国内
主催：R-7 [クラブ登録No.加盟26009]、LAZY W.S [クラブ登録No.加盟27022]

フォト&レポート／山口貴利

米田順一ランサー、“牙城”S3クラスを制して初タイトル



S3は米田順一選手がヒート1のタイムで逃げ切り、地区戦チャンピオンを決めた。



2018年は台風の影響で近畿地区ではラリーとダートトライアルがともに2戦延期または中止となってしまった。ジムカーナの最終戦も台風25号の影響を受け

開催が危ぶまれたが、10月7日に名阪スポーツランドCコースで無事に開催された。

今大会はこのところ恒例となった地方選手権とミドルシリーズの併催で、フェスティバルと

名付けられ、合計132台が集う一大イベントとなった。地方選手権とミドルシリーズは微妙にコースレイアウトが違うが、ともに勝負どころとなるのはフリーターンだ。右回り、左回りのどちらをチョイスするか勝敗のカギを握る大きなポイントとなった。

地方選手権のB1クラスは第1ヒートでシリーズ2番手の藤林伸吉選手がベストタイムを出したが、第2ヒートはタイムダウン。シリーズリーダーの鈴木亮選手がベストな走りで見返りを狙うが2位に敗れたため、藤林選手が優勝でチャンピオンを手にするに。「1本目でタイムを残せて良かった」と藤林選手は苦笑いを見せていた。

1. B1クラスで2位に甘んじた鈴木亮選手。2. B2で2位に入った岡田春海選手。3. B4の2位は村井友樹選手。4. ヒート1のタイムで逃げ切った藤林伸吉選手。5. フリーターンがうまく決まり優勝を飾ったB2の東毅選手。





6. PN1で2位入賞の鎌尾邦彦選手。7. B3の2位は岩崎玲生選手。8. PN2で2位入賞の黒田有一選手。9. 僅差の2位に甘んじたS2の奥浩明選手。10. 接戦となったS2は隅田敏昭選手が優勝でタイトルも決定。11. 「色んな人からのアドバイスのおかげで勝てました」と初優勝を喜んだLクラスの清水浩子選手。12. B4は石田忠義選手が優勝で満点チャンプ決定。13. PN2は抱搏高選手がヒート1のタイムで逃げ切った。14. PN1はロードスターの亀山伸一選手が優勝。15. S1は島田昌典選手がヒート1のタイムで逃げ切った。16. PN3は小玉知司選手が優勝。V6を満点チャンプで飾った。17. 安部洋一選手がS2の3位に。18. Lクラスチャンプ決定済みの辰巳知佳選手は2位。19. S3吉川寛志選手は2位にとどまった。

PN1クラスではシリーズリーダーの亀山伸一選手が両ヒートともベストタイムを出して優勝。FRでクラス3年目でタイトルを手にした亀山選手は「来年は全日本で入賞したい」と抱負を語った。

S2クラスは3人によるタイトル争い。シリーズ2番手の隅田敏昭選手は第1ヒートはパイ

ロンタッチながら幻のベストタイム。しかし第2ヒートでタッチした場所を慎重にクリアし、ベストタイムを更新する。シリーズリーダーの前田忍選手は「フリーターンは攻めたんですが…」と振り返ったが、不通過判定のミスコースに終わり、5位。結果、隅田選手が逆転でチャンピオンに輝いた。

10年連続チャンプを狙う辰巳浩之選手がシ

リーズ2番手につけているS3クラス。リーダーの米田順一選手が第1ヒートはベストタイム。逆転すべく臨んだ辰巳選手は両ヒートともパイロンタッチに沈み、米田選手が優勝でチャンピオンに手にすることに。「十数年、地区戦を走ってきて初タイトルです。今年は足もガラッと変えてタイヤのグリップも良かったです」と満面の笑みを浮かべていた。

ミドルシリーズのGT1586クラスは3人がチャンピオン争いをする激戦区。しかし、この3選手は第1ヒートとともにタイムが伸びず下位に低迷する。第2ヒートに入るとジムカーナは今回が初参戦という三浦選手が、2秒以上タイムアップして、ベストタイムを叩き出す。シリーズ2番手だった山川延宏選手は三浦選手にコンマ3秒届かない。一方、シリーズリーダ



20. B3は前中克仁選手が優勝。「2本目は攻めてPタッチでしたが勝てて良かった」。21. B3クラス入賞の皆さん。22. PN2クラス入賞の皆さん。



23. GT1586クラスは三浦陸選手がジムカーナデビューウィンを飾った。24. GT1586で2位入賞の山川延宏選手。25. 張靖遠選手はGTFWDで2位入賞。26. GT1500で2位入賞の島祐太選手。27. GT4WDで2位入賞の森橋和也選手。28. ATクラスは「攻略法通りに走れた」という妖怪J清本選手が優勝。29. GT1500は0.004秒差の戦いを制した松川周平選手が初優勝。30. 「両ヒートとも攻めることができました」。2本目勝負となったGTFWDは林田直人選手が優勝。31. GT1500クラス入賞の皆さん。32. GT1586クラス入賞の皆さん。33. GTFWDクラス入賞の皆さん。34. GTRWDクラス入賞の皆さん。35. GT4WDクラス入賞の皆さん。36. ATの2位には樋口智哉選手が入った。37. 阿波俊之選手がGT1500の3位に入賞。38. GT1586で3位入賞の江島英哉選手。39. GT4WDで3位入賞の今津誠選手。40. 大澤崇広選手はGTFWDで3位入賞。41. RSクラス優勝の山口幸宏選手。42. GTRWDは田中信資選手が2位争いを制した。43. RTクラス優勝の西川慶一選手。44. GT4WDは田北一賀選手が逆転で優勝。45. S2000が1-2のGTRWDクラスは仲健太郎選手が優勝。



一の平林雅之選手は逆転できず4番手タイム。三浦選手がなんと初参戦初優勝の快挙を成し遂げた。

「1本目のミスを2本目はうまく修正できました」と振り返った三浦選手に続いて2位に入った山川選手がチャンピオンを獲得することに。「2位はちょっと悔しいけれど、チャンピオン獲れたのでやっぱり嬉しい」と素直に喜んだ。

GTRWDクラスは第1ヒートでシリーズ2番手の石塚誠選手がトップタイムをマークし、逆転チャンピオンに望みを繋げた。しかし第2ヒートではタイムダウンして4位に順位を落とすことに。JAFカップダートラを制したこともある仲健太郎選手が逆転優勝で、シリーズも2位に

上がったため、石塚選手は3位にドロップした。チャンピオンを決めたのは今回2位に入った田中信資選手。「1本目はミスコースだったので2本目は守りに入ってしまったが、それでも2位に入れてチャンピオンが獲れたので、良しとします」と喜んでた。

GT4WDクラスは4人のチャンプ争い。第1ヒートはシリーズ3番手の今津誠選手がトップタイムを奪うが、第2ヒートで起死回生の走

りを見せたのがシリーズ2番手だった田北一賀選手だった。「1本目はパイロンタッチ。でも生タイムでも届いていなかったの2本目はとにかくアクセルを踏みました。ターンは得意ではないので外周区間で稼ぐ走りをしました」と振り返ったその走りが功を奏して逆転優勝でチャンピオンに輝いた。2位に入った森橋和也選手がシリーズ4番手から2位に浮上。今津選手はシリーズ3位に甘んじる形となった。